



(上) 地域の若者でつくる加斗クLOVE (下右) 地域の資源を生かした事業をする遠敷地区 (下左) 郷土愛を育むために偉人を顕彰する雲浜地区



地域と市民活動団体が連携して整備が進む上根来区



左から、遠敷地区ふるさとづくり推進会 委員長 仲野賢さん(68歳・忠野)、市民協働課 松井課長、WAC 小浜 代表 鳥居直也さん(52歳・水取一丁目)、加斗クLOVE 代表 木村武史さん(32歳・上加斗)

自分たちの地域は自分たちで作るのが原点

市の職員に求められる姿勢はいかがですか？

若い人は堅いイメージがあると離れていく

スキルを持った外部の専門家や市職員の力も必要

反映させていきたいですね。  
**仲野** 遠敷では、住民が求めている事業か、自分たちの地区を良くしようという雰囲気生まれるか、若い人が参画してくれるか、を3原則に事業を考えています。  
**松井** 最近では、専門性を持った市民活動団体と連携して地域の課題解決に取り組む地区も出てきましたね。  
**仲野** 遠敷地区では、限界集落と言われている上根来を何とかしようと、ボランティア支援団体のWACおばまなどと協力しながら整備を進めています。  
**鳥居** 行政に頼るのではなく、自分たちでやろうと変わってきました。しかし、住民だけでは専門スキルに限界があります。外部の力を頼ることも必要です。  
**松井** 地域拠点として公民館の役割も重要になりますね。地域の皆さんで協議会を作って公民館を運営していただくという今の形も市で検討していますが。  
**仲野** 本来は自分たちでやるべきでしょうが、まちづくり委員会の事務や連絡は公民館に頼っているのが現状ですね。

**小** 浜市が協働のまちづくりに取り組んで今年で3年目。それぞれのフィールドで活動する3人に、市民協働課長を交えて、座談会を開催しました。  
**松井** 各地区では平成13年度から、まちづくり委員会が立ち上がり、住民主体のまちづくりが進んでいます。  
**鳥居** 住民の意識が、それまでの、「今度何を市に要望しよう」から、「今度何をしようか」に変わっていったのが印象的でした。  
**仲野** 自分たちの地域は自分たちが作るというのが原点。地域の資源を生かすことで、おもしろいむらづくりができるのでは。

# 「今度、何をしようか?」 その思いが協働の始まり!

小浜に根付いてきた協働のまちづくり。熱い4人による紙面座談会を開催!

市民協働BOX  
Vol. 24

**木村** 僕らも鯉川海水浴場の清掃を企画したときに、公民館から声をかけてもらい、地元の人100人を集めてもらいました。一方で、若い人は公民館に堅いイメージも持っているようです。  
**鳥居** 住民のビジョンを支える事務能力を持った人材がいる地域は住民主体に移行できると思います。  
**松井** 協働のまちづくりにおいて、市の職員に求められることは何だと思えますか。  
**鳥居** スキルを持った専門家として地域活動に参加してほしいですね。  
**木村** 地域で市の職員が前面に出てはいけないという意識の人もありますが、地元で遠慮する必要はないと思います。  
**仲野** わたしたちの分からないことをアドバイスしてもらえると助かりますね。積極的に参加してくれる人も実際にいますし。  
**鳥居** 普通の会社員よりは、市民協働に一步積極的に関わる姿勢が期待されていると思います。

**松井** 地域のまちづくりをさらにステップアップさせるには?  
**仲野** 若い人の取り込みです。遠敷では青年部を作り始めました。  
**木村** 若い人は単独ではまちづくり委員会に入りにくいので、加斗でも下部組織として、地域の若い人による「加斗クLOVE」を立ち上げて活動しています。  
**松井** 地域の人にもっとまちづくりに参加してもらうにはどうすればいいと思えますか。  
**鳥居** 毎年、型にはまった事業をすると、一部の人のものになっていきます。広げる努力は常にしていかなければと思っています。  
**木村** 新しい人が入ったときは、企画にその人の意見をできるだけ

**次** 回の、市民協働BOXは、1月号に掲載予定です。